

第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想

資料1

基本的な施策の検証

1 文化遺産の継承と活用

(1) 基本施策1 地域の歴史的・文化的遺産を継承します

●地域の歴史と文化を知る機会の創出				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
① 史資料の積極的な公開 ② 社会教育機関における史資料を活用した学習機会の提供 ③ 学校における郷土の歴史や文化を知る学習 ④ 伝統的な芸能に触れる機会の創出 ⑤ 先人・偉人の顕彰	(生涯学習・文化財課) ・市誌編集資料は、資料室にて保管し閲覧や利用申請に応じて活用を図った。 ・博物館や公民館、図書館等で各種講座を実施し、市民の学習、研究活動の促進を図った。 ・全小中学校に「特色ある学校づくり交付金」を交付し、各校が創意工夫した郷土学習を実施している。 ・小学校3、4年生に社会科学習帳「わたしたちの上田市」を配布し、市の自然や文化、産業を学ぶ機会を充実させている。 ・「信州上田学」事業を小学校の授業で取り入れ、郷土を学ぶ機会としている。 ・指定文化財の伝統芸能の公演予定を広報等に掲載し周知に努めた。	A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	【施策の必要性】 ・市誌編集時の資料は各分野を網羅した上田市の歴史を物語る貴重な資料であり、適切な保存と研究や市民の学習等への活用が求められる。 ・博物館や公民館、図書館は市民に身近な社会教育施設であり、講座等の開催により学習の場を提供することは必要である。 ・児童生徒が、郷土に誇りと愛着を持てるよう、豊かな自然や地域の文化を体験し、学ぶことができる活動に参加する機会を充実させる必要がある。 ・伝統行事は、地域の歴史を今に伝えるとともに、貴重な地域コミュニティの場であることから、多くの地域住民が参加できる環境づくりが必要である。 【課題】 ・市誌編集資料は安全に一括保管されているものの、市民が活用しやすい状況ではない。また、公開の可否が曖昧な資料も多い。 ・人口減少や少子高齢化、価値観の多様化等により、伝統行事の担い手の確保が課題である。 【新たな視点・方向性】 ・公開可能な資料から公文書館への移管を進め、活用を推進する。 ・生涯学習・文化財課や博物館、公民館、図書館の連携により事業を実施することで、単独では実施が困難な内容の講座等を開催することができる。 ・指定文化財への補助を継続する。 ・住民が地域の歴史や伝統行事を知り、誇りを持てるよう、情報発信を推進する。	A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止
●市民協働による文化財の保存				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
① データの収集・集積と情報の整理 ② 文化遺産の保護と保全 ③ 地域に残る伝統芸能の継承と活動の推進 ④ 仮称「公文書館」の設置 ⑤ 各分野における後継者の育成	(生涯学習・文化財課) ・指定文化財所有者が行う修理等の保護事業及び指定無形民俗文化財などの後継者育成事業に対して補助金を交付した。 ・日本遺産に係るため池の調査や上田市文化財保存活用地域計画作成に伴う仮調査において、情報をデータ化し一元管理している。 ・公文書館は設置済み ・一部情報については市内で共有し、仏像展の開催など横断的な事業展開に役立っている。	A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	【施策の必要性】 ・文化財は地域の歴史を今に伝えるとともに、将来の地域文化の発展の基礎となる貴重な財産であるため、適切に保護して次世代へ引き継ぐ必要がある。 ・歴史的・文化的遺産を次世代に継承し活用するために、調査を実施しその価値に応じて指定や登録を行い保護する必要がある。また、調査記録等を適切に保存管理することで、貴重な歴史資料の蓄積に繋がる。 【課題】 ・人口減少や少子高齢化、価値観の多様化等により、これまで文化財所有者や地域で担ってきた文化財の維持管理が困難となってきた。 ・調査や新たな指定等には所有者の同意が不可欠であり、貴重な文化財を将来にわたって保護していく機運の醸成が必要である。 【新たな視点・方向性】 ・所有者や地域住民だけでなく、市民や企業など多様な主体が参加し相互連携することで、文化財の保存・活用を推進する。 ・記録保存のみならず、公開可能な情報についてはアーカイブ等により広く公開し、活用していくことが望まれる。	A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止

(2) 基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます

●市民協働による歴史的・文化的遺産の活用				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
① 歴史的・文化的遺産の情報発信 ② 文化遺産の文化活動での活用 ③ 文化遺産の観光資源としての活用 ④ 地域の特色ある文化遺産を連携させたまちづくりへの活用	(生涯学習・文化財課) ・文化財の修理を行う際、現地見学会を開催し文化財に触れ学習する場として活用した。 ・発掘調査現場において現地説明会を開催した。 ・令和4年3月に「上田市文化財保存活用地域計画」を作成し、同年7月に文化庁の認定を受けた。 ・令和2年6月に「レイランがつなぐ太陽と大地の聖地」龍と生きるまち 信州上田・塩田平が日本遺産に認定され、構成文化財をつなぐストーリーを軸とした観光資源としての活用を進めている。 ・指定文化財となっている建造物や史跡を活用して、「文化財de文化祭」と題してコンサート等を開催し、文化財の活用を図ったほか、文化財の修理を行う際、現地見学会を開催し文化財に触れ学習する場として活用した。 ・未指定の建造物の調査を行い、令和2年度に2件、3年度に1件、5年度に2件の建造物が国登録有形文化財に登録された。 ・平成28年度から30年度にかけて市内の木彫仏(約1,500体)の発掘調査を行い、令和4年度から6年度まで詳細調査を実施した。また、「特別展 ハッケン! 上田の仏像」の開催により貴重な仏像の展示を行った。 (文化政策課) ・関係する団体との協働による、上田市日本遺産シンポジウム、上田市日本遺産セミナー、獅子舞回演舞等のイベント実施や、大型ショッピングモールの一面で実施したパネル展により、上田市日本遺産の普及啓発に努めた。 ・魅力発信については、テレビ、ラジオによる情報発信のほか、旅行雑誌等への広告により誘客を図った。	A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	【施策の必要性】 ・文化財は将来の地域文化の向上発展の基礎となる貴重な財産であるため、適切に保存し、活用しながら次世代へ引き継ぐ必要がある。 【課題】 ・人口減少や少子高齢化、価値観の多様化等により、文化財保護意識の希薄化が進んでいることや文化財を保存活用していく人材が不足していることが課題である。 【新たな視点・方向性】 ・文化財調査や修理事業等、様々な機会を捉えて情報を発信し、文化財は貴重な財産であり地域総ぐるみで保護していく必要があることを啓発していく。	A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止

2 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造

(1) 基本施策1 青少年の文化芸術活動の充実

●青少年の文化芸術活動の充実				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
① 青少年が文化芸術活動に取り組むための支援 ② 学校教育において子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出 ③ 地域の伝統行事や伝統芸能への参加促進	(文化政策課) ・青少年が文化芸術活動に触れる機会促進を図るため、上田市文化少年団の活動を支援した。 (交流文化芸術センター) ・音楽事業では、市内小学校全25校に演奏家を派遣し、音楽室などを会場に、参加体験型のクラスコンサートを開催。ダンス事業では小学校でワークショップを実施し、ダンサーと子どもたちがダンスを創作する体験の場を提供した。身近な空間でアーティストと接することにより、児童の感性や創造力の育成に努めた。 【実績】音楽事業(令和3～5年度):72校、4,179人 (市立美術館) ・小中学校での団体見学の鑑賞サポートや、高校生や大学生を対象とした講演会やワークショップを実施し、体験・学習の機会を創出した。また、全国美術系大学の版画専攻学生の公募展の開催により、学生の作品発表の機会を担保するとともに、最新の版画表現を広く紹介した。 【実績】団体見学(令和3～5年度):48件、1,759人	A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	【施策の必要性】 ・子どもたちによる文化・芸術の振興を継続する必要があることから、引き続き関係団体の活動を支援してまいりたい。 ・「育成」を基本理念に掲げる当館において根幹となる事業であり、事業実施後、学校から児童生徒及び学生への好影響がある旨の意見が寄せられるなど、継続実施に対する期待が高いことから、中長期的な視点をもちながら事業を継続する必要がある。 【新たな視点・方向性】 ・演劇事業等は当該項目としての取組から、「創造育成」事業の推進のための取組として、活動内容を含め位置づけの変更を検討する。	A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止
●市民による地域に根ざした文化活動や新たな創造への支援				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
① 市民の芸術鑑賞等の機会の充実 ② 情報の収集と発信 ③ 文化芸術活動に取り組む団体や人材の育成 ④ 文化芸術の振興を図るための環境整備 ⑤ 市民による地域に根ざした文化活動や新たな創造	(交流文化芸術センター) ・上田地域定住自立圏連携事業の取組として、レジデント・アーティストが連携町村(長和町・青木村・立科町・坂城町・堀端村)に赴き、地域ふれあいコンサートを開催。身近な会場で楽しめるコンサートとして好評を得てきた。 ・「まちとつながるプロジェクト」と称し、音楽・演劇の各事業を実施した。中心市街地にある民間劇場と連携した企画の協働実施やまちなかでのパレードを行い、地域と連携しまちの活性化を図った。 (市立美術館) ・東信地域で美術活動を展開する美術団体の展覧会「東信美術展」を共催で行うことにより、市民による広域的な文化活動を支援してきた。 ・市民が守り伝えてきた貴重な文化財を活用した展覧会を企画し、文化財を伝承する機運を高めるとともに、地域文化の涵養を図った。 (文化政策課) ・上田、丸子、真田の各地域の文化団体の正副会長からなる実行委員会を組織し、シリーズ文化講演会を開催している。 各地域で取り上げたいテーマを協議し、講演内容や講師選定を行うなど、実行委員が自主的に事業を推進している。	A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	【施策の必要性】 ・上田地域定住自立圏の中核となる文化交流拠点として、広域的な文化交流を推進する事業及び文化活動の発展を支援する事業は、継続して実施する必要がある。 ・地域の文化資源等を活かす事業等の実施により、地域の活性化を引き続き推進する必要がある。 【新たな視点】 ・演劇事業等は当該項目としての取組から、「創造育成」事業の推進のための取組として、活動内容を含め位置づけの変更を検討する。	A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止

(2) 基本施策2 サントミュージーゼを核とした文化の薫る創造都市の実現を目指します

●文化創造都市としての「創造育成」事業の推進				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
① 「芸術家ふれあい事業」や「子ども育成事業」の開催 ② 市民が参加する創造公演・体験型講座の開催	(交流文化芸術センター) ・「芸術家ふれあい事業」や「まちとつながるプロジェクト」等を通じて、アーティストが地域に出向き、パレードを実施するなど、市民と交流し、芸術文化に関心がある方のみならず、まちで出会う方々の関心を喚起した。 ・首都圏で活躍する劇作家や演奏家等をレジデント・アーティストとして招聘し、当館を拠点として、ワークショップや市民参加型公演、リサイタル公演の関連アナーゼなど、市民とアーティストが作品制作等を通じて直接ふれあい、表現活動の楽しさや素晴らしさを体験する事業を展開した。 ・また、毎年市内の高等学校演劇部の生徒を対象に、「創造と創作」の場である大スタジオでの演劇作品づくりを行った。 (市立美術館) ・高校生以上を対象に、「鑑賞」「制作」「学習」の要素を掛け合わせた絵画や版画等の講座を実施し、受講者による作品発表会を開催した。また、市民の自主的な創作活動を促す仕組みとして、令和3年度に「アトリエアメンパー」を設け、参加者を募集してきた。 ・子どもアトリエ事業において、時勢やニーズを考慮した多彩なプログラムを展開し、状況に応じて創意工夫した運営を心掛けた。また、アーティストによる独自の企画を行うなど、子どもたちの感性や創造力の育成に努めた。	A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	【施策の必要性】 ・市民参加型公演や「鑑賞」「制作」「学習」の要素を掛け合わせた講座等については、市民の芸術文化活動の促進を図るとともに、市民自らが創作活動等を行うきっかけや発表の機会を提供できる有効な事業であり、引き続き実施していく必要がある。 ・次世代を担う子どもたちの創造力を育む事業は、文化創造都市としての根幹をなすものであり、切れ目なく継続していくことが必要である。 【新たな視点】 ・「創造育成」という当該項目の内容を鑑み、市民の自主的な活動を一層促す事業の実施を検討する。	A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止

④市民とともに歩む施設を目指す「市民協働」事業の推進				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
①市民サポーター活動の充実 ②人材育成の推進 ③積極的な情報発信と情報収集	<p>(交流文化芸術センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に「市民サポーター」制度を設置し、音楽事業では地域ふれあいコンサート等を中心に現場の運営を担ってもらってきた。 劇場や美術館の接遇業務を担うレセプションを地元で募り、専門的な知識とノウハウを身につけ、スキルアップのための継続的な研修にも取り組んできた。令和6年3月31日現在で22人が業務に従事。 文化芸術の分野で活躍する専門家を招いて、長野大学等の学生に対し、劇場や美術館の企画・制作等について学ぶ講座やワークショップを行った。また、高校生を対象とした「実験的演劇工房」も、舞台技術等の専門的知識も学ぶ場として展開してきた。 <p>(市立美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもアトリエ事業において、職員と協働しながら運営を支援する存在として位置付けた「子どもアトリエサポーター」を、令和3年度より本格的に導入しており、事業の運営補助や子どもたちの活動の支援をしてきた。また、地域の美術団体の会員や、美術教諭などに「子どもアトリエ運営委員」として参画してもらい、事業の活動方針や内容に関する提言や協力を得てきた。 作家が自身の作品発表用の写真撮影技術を身に着ける「アート作品撮影講座」や、30歳以下を対象として美術に関する職種を紹介する講座「ビジュアルのシゴト」等を開催し、芸術活動を支える人材や美術の担い手の育成を図った。 	B A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	<p>【施策の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホール運営及び事業に携わる「市民サポーター」制度は、第二次計画をもって終了するが、美術館事業の円滑な運営においては、「子どもアトリエサポーター」や「子どもアトリエ運営委員」との協働による活動は不可欠であり、継続する必要がある。 劇場や美術館で接遇業務を行うレセプションや、芸術系大学等へ進学・舞台技術者として職に就く若者の育成など、将来の上田市の芸術文化の振興に寄与する人材育成は不可欠な取組であり、今後も継続が必要である。 	B A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止
⑤魅力ある「鑑賞」事業の推進				
基本的な施策	施策の取組結果	施策達成度の評価	施策の必要性・課題・新たな視点等	方向性
魅力ある「鑑賞」事業の推進	<p>(交流文化芸術センター・市立美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元企業(テレビ局・新聞社等)との共催により、自主事業のみでは実現できない規模感ある公演や展覧会等を開催し、鑑賞者の幅広いニーズに応えている。 ミュージカル公演に小学生を無料招待する「ニッセイ名作シリーズ」をはじめ、企業協賛による公演を誘致し、子どもたちが本格的な舞台芸術作品に触れる機会を提供してきた。 館運営を資金面から支援する「サントミュージゼ・ハートナース」の拡大に向け、令和6年度から仕組みを改変し、地元企業等への参加を積極的に呼びかけていく。 <p>(交流文化芸術センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外で活躍するアーティスト等を招き、多彩な内容の主催事業を企画するとともに、劇場間ネットワークを活かす招聘公演等のほか、群馬交響楽団との準フランチャイズ提携、新国立劇場との連携協定を実現してきた。各事業では、観客アンケート等で意見を聞き、今後の事業展開の参考にしている。 <p>(市立美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 著名アーティストの作品展から現代美術、アジアの美術の潮流、地域の刀剣美術など、幅広いラインナップで魅力ある展覧会を開催。他の美術館とのネットワークを活かす企画により、幅広い観賞ニーズに応え、市内外から多くの来館者を迎えてきた。 上田ゆかりの郷土作家(山本鼎、石井鶴三、ハリイ・K・シゲタ、中村直人等)の美術作品・資料等の展示及び顕彰、並びに幅広いテーマに沿った企画展示により、地域の文化的背景と土壌を掘り下げ、その魅力の発信に努めてきた。 	B A: 順調 B: 概ね順調 C: 停滞 D: 下降	<p>【施策の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> より魅力ある鑑賞事業を推進するため、メディアとの共催等を含め、幅広いニーズに応える事業を展開していく必要がある。 企業メセナによる質の高い舞台公演等を子どもたちに届ける事業は有意義であり、引き続き誘致に努めていく。 「サントミュージゼ・ハートナース」の獲得は、今後の事業運営の安定化を図るうえで必要不可欠であるため、積極的に取り組む。 劇場・ホールの演目及び美術館の展覧会が上田市来訪の目的となることも多く、また、まちなかの賑わいづくり・新たな交流の機会の創出、まちの魅力の再発見といった観点からも、安定的に継続していくことが必要である。 市立の美術館として、地域に縁ある作家の顕彰及び美術運動等について紹介していくことは根幹となる活動であり、館の責務である。 	B A: 拡大・充実 B: 継続 C: 縮小 D: 廃止・休止